

【様式 3-3】

大阪市立八阪中学校 平成 28 年度 校長経営戦略支援予算 【加算配付】配付申請書 (補足説明資料)

1. 加算配布の必要性

- (1) まず初めに選定委員の方々にお願いしたいことは、今年度 4 月に着任したばかりで、「平成 27 年度運営に関する計画」を再掲しながら加算配布を申請するには、計画性や説得力に欠ける点があることを十分に考慮したうえで選定していただき、校長を支援していただきたいということです。
- (2) 一昨年度に教員公募制度を活用し、地域と連携した吹奏楽部を立ち上げられる人材を確保し、音楽同好会を立ち上げ 21 名の部員が入部した。
- (3) 意欲的な部員たちは吹奏楽を行うための楽器がない中、コーラスに取り組み、ブロック音楽会や文化祭、区民祭りに参加し、できる範囲内での地域交流を図り、一定の成果を収めることができた。
- (4) 昨年度、校長経営戦略予算【加算配布】で楽器購入費用等を申請したが、残念ながら選定に漏れる結果となってしまった。
- (5) 学校協議会において意見があり、吹奏楽部を本校に創部してほしいという地域からの要望に対して学校だけに頼らず、同窓会・PTA・PTAOB 会・各校区連合振興町会が協力して吹奏楽部設立後援会が設立された。その後援会が中心となって、各諸団体・地域・卒業生等に呼びかけをされ、多数の楽器を寄贈していただき、吹奏楽としての活動が開始できた。
- (6) しかしながら、ゼロからのスタートであり、現状としてまだまだ吹奏楽部として活動するうえでは楽器数が足りない現状である。また、演奏会等を実施するためには、楽器の搬送費用が必要であり、その予算も必要である。

2. 効果

- (1) 学校教育重点目標として「豊かな心」と「確かな学力」の育成を掲げている本校にとって音楽活動を通して「豊かな心」を育むことができるチャンスである。
- (2) 地域からの応援を一身に受けた吹奏楽部員たちが、体育大会・文化祭等の校内行事はもちろんのこと、地域での演奏を披露することで、自己有用感が部員だけでなく全校生徒へ育成される。

★自己有用感とは★（生徒指導リーフ、いじめのない学校づくりより）

単なる自己肯定感や自己存在感ではなく、相手からの好意的な反応や評価があつて感じるこのできる自己の有用性のことを自己有用感と呼びます。

他者から認めてもらえていたり感じられた子供は、いたずらに他者を否定することも、攻撃することも減ります。相手を貶めて自分の存在を相対的に高めるという必要がないからです。さらには、相手のことも認めることができるようになってきます。すべての児童生徒に対して、授業や行事の中で活躍できる場面を設定していくことが、いじめの未然防止につながります。

3. 具体的な取り組み

- (1) 体育大会・文化祭等の校内行事での演奏
- (2) 小中一貫した教育の推進に向けて、小学校行事との交流
- (3) 地域行事に積極的に参加し、生徒・保護者・地域が一体となったコミュニティの形成
- (4) 学校ホームページ等で、保護者・地域への啓発を図り「開かれた学校」の創造